

## ナガフトヒゲナガゾウムシを 川西市黒川で採集

近藤伸一

ナガフトヒゲナガゾウムシ *Xylina striatifrons* は1979年に和歌山県から日本初記録として報告され、その後近畿、北陸、中部で採集されている。

兵庫県下では但馬(関宮町、村岡町)、播磨(吉川町、西脇市、大河内町)で採集されており、西脇市では佐藤邦夫氏が、村岡町では永幡嘉之氏がそれぞれ多数を採集されている。

本年、川西市黒川でライトトラップに来た本種を次の通り採集した。

川西市黒川 1♀ 13-VII-1996 近藤伸一

### <参考文献>

- 高橋寿郎(1986) ナガフトヒゲナガゾウムシを美濃郡吉川町にて採集 IRATSUME(10):46~47.  
 的場 頌(1992) 滋賀県におけるナガフトヒゲナガゾウムシの記録 月刊むし(253):39.  
 佐藤邦夫(1993) ナガフトヒゲナガゾウムシについて IRATSUME(17):79~80.  
 永幡嘉之(1994) 但馬における甲虫数種の採集記録 IRATSUME(18):56~57.  
 (KONDO SHINICHI 神戸市西区岩岡町岩岡619-57)

## アヤスジミゾドロムシの記録

(兵庫県甲虫相資料・326)

高橋寿郎

筆者は本誌前号(Vol.24, No.1, p.44-45, 1996)において山本義丸氏からお送り頂いたヒメドロムシ科の標本を野村 鎮氏が記載された *Stenelmis shirahatai* Nomura アヤスジミゾドロムシと同定して氷上郡柏原に産すると報告させて頂いた。

ところが最近、佐藤正孝博士が発表になられた"日本産水棲甲虫類の分類学的覚え書 III"(甲虫ニ

ューズNo.69, p.1-5, 1985)を拝見していると、なんとその中でアヤスジミゾドロムシの原記載以後の検視標本として宮城県産1ex., 新潟県産2exs., 兵庫県柏原産12exs. があった。しかもそれらは"12exs., Kaibara, Hyogo Pref. 2-17.VII.1949, Y.Yamamoto" とある。即ち、山本義丸氏が神谷一男博士の下に同定依頼された標本ではないかと思われる(神谷一男博士も佐藤正孝博士も名古屋に居られた関係で、佐藤博士がその標本を検されたのではないかと考えるが—)。

ただ、山本義丸氏が神谷一男博士の下へ同定を依頼されて *Stenelmis yamamotoi* Kamiya キアシホソドロムシとして記載される予定のものが、同博士の逝去によって宙に浮いたものが、実は野村 鎮氏の記載されたアヤスジミゾドロムシ *Graphelmis shirahatai* (Nomura) であるということは、採集者山本義丸氏の所へは誰も連絡していなく、山本氏も名前がわからないままその一部標本を筆者の所へ送られたのである(採集月は違うが同じ年の採集品である)。お陰でそのあたりの事情全くわからずに同定した私の同定が間違っていなかったことがわかりホッとしている。

佐藤博士は"非常に少ないようで検視標本のほとんどは河川の上・中流の清流域付近の灯火で得られたものであり、本来の棲息環境については何も判っていない"と述べておられる。

(TAKAHASHI TOSHIO 神戸市兵庫区氷室町1-44)

## ヒロヘリアオイラガ幼虫の 食樹についての報告(続1)

新家 勝

本年確認したヒロヘリアオイラガ幼虫の食樹は、イチイガシ、サザンカ、シャクヤク、カイドウの4種であり、合計15種になった。

(NIINOMI MASARU 宝塚市光明町8-57)